

令和3年度

学校経営の基本構想

令和3年4月1日

京都市立新林小学校

令和3年度 学校の基本構想

《学校教育目標》

「自分の良さを生かし、夢に向かって、挑戦し続ける子どもの育成」

～ひとりひとりが 力を合わせ

明るく たくましく 伸びていく 新林の子～

子どもの自己肯定感を高めることで、主体的に行動できるようになることを目指す。

※自校の課題・・・自己肯定感が低く、主体的に行動できない。

○自己肯定感が高まることで『主体的に学ぶ力、律する力』が高まると考える。

・ 令和3年度 京都市が学校教育において重視する視点

『自ら学ぶ力』と『自ら律する力』を教育活動の中で高める。

『自ら学ぶ力』 学ぶことに興味や関心をもち、自己の進路や将来の生き方と関連付けながら目標実現への見通しをもって粘り強く取り組むとともに、自己の学習活動を振り返り、自らの学びをよりよい方向で調整し、他者とも協働できる力

『自ら律する力』地域や社会との関わりの中で他者への思いやりや寛容、人と人との絆の大切さを実感しながら、自らの生活や人生、地域・社会をよりよくするため、時と場合に応じた正しい判断ができる力

〈目指す学校像〉

より良い社会につながる学校

○子どもも保護者も地域も教職員も自己肯定感の高まる場

○子どもも教職員も

確かな人権感覚と

社会性を育成する場

○全教育活動が学びの場

○保護者・地域と

連携・協働する場

○小中連携し

9年間を見通した学びの場

○「ふるさと新林」の思いを醸成する場

○働き方改革を推進し、PTA活動も含め働きやすい場

〈目指す子ども像〉

自分の良さを生かし、夢に向かって、挑戦し続ける子

○あきらめずに粘り強く挑戦できる子

《心やさしい子》

○進んであいさつができる子

○しっかり聞き、しっかり話せる子

○約束・ルール・時間を守る子

○自分も人も物も大切にできる子

〈目指す教職員像〉

子どもへの愛情と職務に対する誇りと責任をもった教職員

○子どもの命を守りきる意識をもった教職員

○社会人・教育公務員としての自覚と責任をもって考え行動できる教職員

○絶えず専門職としての力量を向上させるために自己研鑽する教職員

○チーム新林という組織の一員としての同僚性を発揮できる教職員

《学校の教育方針》

(1) 「確かな学力」の育成 ～日々授業改善に向けて～

「確かな学力」の育成とは

- 基礎的・基本的な知識・技能はもとより、「習得」した知識・技能を「活用」して、課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等高めること
- 「学ぼうとする力」「学び続ける力」等を身に付けること

〈授業改善に取り組み、自己肯定感を高め、学力向上と指導力向上を図る〉

- ① 学習規律の確立
- ② 学習環境の整備
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の「習得」と「活用」(自己決定の場)
- ④ 問題解決的な学習と「探究」活動
- ⑤ 一人一人の子どもの実態を把握し、活躍の場を設定し、学力を最大限に伸ばす指導の推進
- ⑥ I C Tの積極的な活用
- ⑦ LD 等支援が必要な児童の学力向上
- ⑧ 外国語教育の充実
- ⑨ 家庭での自学自習の習慣形成
- ⑩ 指導と評価の一体化

◎始業時に教科書・ノート・筆記具・体育の服等がそろっているか確認

(2) 「豊かな心」の育成 ～人権教育と道徳教育の充実に向けて～

「豊かな心」の育成とは

- 「人権感覚」と「社会性」
- 自他を大切にする態度（命を大切にする心，他人を思いやる心，感動する心など）の育成

- ① 人権尊重を基盤とした支え合い高め合う学級集団・学年集団づくり
- ② 規範意識の育成
- ③ 道徳教育の推進
- ④ 特別活動で育てる力
- ⑤ 豊かな感性を育む教育の推進

◎児童の誕生日に「おめでとうと」声をかける。

(3) 「健やかな体」の育成 ～保健教育と安全教育の充実に向けて～

「健やかな体」の育成とは

- 自らの健康や安全を管理し，生活を改善する力
- 心身の健康を維持し，たくましく生きるための体力
- 毎日の生活を明るく生き生きと生活できる力

- ① 保健教育の充実
- ② 安全教育の充実（知識だけでなく実践できる力）
- ③ 「食」に関する指導の推進
- ④ 運動による体力の向上
- ⑤ 規則正しい生活の確立
- ⑥ I C Tの活用に対する心身への影響の理解と対策
◎毎朝の児童の健康観察（心の状態や服装，食事や睡眠についての把握）

《学校経営の重点》

☆組織としての「チーム新林」の強化

- ・「報告・連絡・相談」の徹底 ⇒ 「抱え込み禁止」「丸投げ禁止」
 - ・学校での出来事は、全教職員にかかわる出来事
 - ・「風通しの良い職員室経営」と「明るく楽しい職場づくり」
 - ・OJT（働きながら学ぶ）の実践による人材育成
- ⇒キャリアステージに応じて、「自己目標申告」をし、振り返り、自己評価
- ⇒ミドルリーダーの育成（「スキル」と「マインド」の育成）
- ⇒他校の取組や実践、研究会から学び、自校に応用
- ⇒「勉強会（若手研）」での授業力・学校経営力の向上
- ・機能的な校務分掌 ⇒ 「立場が人を創る」と「役割分担」
 - ・「時間を守ること」と「教育公務員としての適切な言葉遣い」の励行

☆新学習指導要領に対する理解と実践

- ・校内研究・生徒指導を核とし、全教科・全教育活動での実践
- ・英語教育の推進，時数確保（高70H，中35H，2年15H，1年10H）
- ・ICTを活用し，自己表現する力の育成

☆研修の充実

- ・知識・理解だけでなく「自己に問う」研修
- ・単なる「心がけ」ではなく，具体的に活用できる研修
- ・客観的データに基づいた研修（学校評価アンケート・学力調査・ジョイプロの分析）

☆学習環境整備の推進，安全・心の安定・効率化・教育効果

- ・常に整頓された教室・廊下
- ・校内美化（日常的）と空き教室の円滑な活用
- ・教職員での環境美化（ごみの分別）
- ・計画的適正な予算編成（必要なものを計画的に購入・無駄を省く）

☆校務支援（C4 t h）の活用と推進

- ・週案の活用と点検（授業時数確保，見通しをもって【特に外国語，総合，道德】）
- ・新林日報・連絡掲示板・いいところみつけ等の活用

☆発信力の強化

- ・ホームページ更新（個人が特定できない画像使用）と学校評価の活用
- ・思いや考えが伝わる「学校だより」「学級通信」

☆地域保護者との連携

- ・「学校運営協議会」との連携，「放課後まなび教室」との協力
- ・PTA 行事，地域行事への参加

☆小中連携

- ・SSR 生活プラン（あいさつ・掃除・時間を守る）
- ・中1プロブレム改善のための生徒指導，学力向上，人権教育の取組の交流